

読み比べ活動

—『伊勢物語』「筒井筒」と『大和物語』「沖つ白波」の読み比べ—

国語科 植田 敦子

『伊勢物語』「筒井筒」と『大和物語』「沖つ白波」の読み比べ活動は今までも数回行っていたが、新学習指導要領に変わり、『言語文化』という科目の単元の「言語活動」として設定し、評価も「観点別評価」に基づいている。本格的に観点別評価を行うようになり、まだ評価に関しては試行錯誤の段階である。2022年11月の公開教育研究会で発表した際、参加者の方からも、授業の方法や評価方法についてさまざまなご意見をいただき、自身の学びとなった。本稿は、主にその公開授業研究会を振り返り、資料としてまとめたものである。

〈キーワード〉言語文化 新学習指導要領 観点別評価 言語活動 読み比べ 『伊勢物語』 『大和物語』

1. はじめに

2022年度から新課程に移行し、本校の1年生の国語の授業は、「現代の国語」2単位、「言語文化」2単位で行っている。今回は、その中で「言語文化」での単元末の言語活動として、読み比べ活動を行った。「学習指導要領」に示された、「読むこと」に関する言語活動のうち、「異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動」に相当する課題としての設定である。具体的には、『伊勢物語』第二十三段「筒井筒」を学習した後、『大和物語』第四百四十九段「沖つ白波」を比較して読み、内容や作品の印象の違いを考えさせた。また、『古今和歌集』の「風吹けば」歌と左注についても紹介し、成立過程についての考察もさせたが、公開教育研究会当日は時間的に難しく、次の時間の活動とした。本稿は、その公開教育研究会での内容を中心にまとめたもので、章立ては以下の通りである。

1. はじめに

2. 学習指導案

単元の言語活動－読み比べ活動

- ・『伊勢物語』「筒井筒」（第二十三段）と『大和物語』第四百四十九段）の違いについての考察
- ・作品の印象の違い、どちらが好みかとその理由

3. 当日の配布資料（学習指導案以外）

4. 観点別評価について

5. 研究協議会記録

公開教育研究会当日の質疑応答等

6. 反省、振り返り

2. 学習指導案

1年必修「言語文化」学習指導案

日 時 11月19日(土) 9:50-10:40

対 象 1年菊組(計42名)

授業者 植田敦子

会 場 附属高等学校 3階演習室

2.1. 単元名, 教材名, 教科書名

科目名: 言語文化(2単位)

単元名: 読み比べ～伊勢物語「筒井筒」, 大和物語「沖つ白波」, 『古今和歌集』(雑歌下994)

教科書名: 『言語文化』(第一学習社)

副教材: 『九訂版 読解を大切にする体系古典文法』(数研出版)

『新国語総合ガイド 五訂版』(京都書房)

配布資料出典

: 『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』片桐洋一他

(『新編日本古典文学全集』小学館 1994年)

: 『古今和歌集』小沢正夫他 (『新編日本古典文学全集』小学館 1994年10月)

2.2. 単元の目標と育成する資質・能力

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
古典の世界に親しむために, 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり, 古典特有の表現などについて理解できる。(2)ウ)	「読むこと」において, 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ, 内容の解釈を深めることができる。(B(1)エ)	積極的に読み比べ, 『伊勢物語』『大和物語』それぞれの特色や魅力に気づくことができる。

【育成する資質・能力】

異なる時代に成立した随筆や小説, 物語などを読み比べ, それらを比較して論じたり論評したりする。

2.3. 具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の世界に親しむために, 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり, 古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ)	「読むこと」において, 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ, 内容の解釈を深めている。 (B(1)エ)	『伊勢物語』の同話と積極的に読み比べ, 『大和物語』の表現の特色を理解している。

2.4. 指導観

2.4.1. 単元観

本単元は, 「学習指導要領」に示された, 「読むこと」に関する言語活動のうち, 「異なる時代に成立した随筆や小説, 物語などを読み比べ, それらを比較して論じたり批評したりする活動」に相当する課題として設定した。具体的には, 『伊勢物語』第二十三段「筒井筒」を学習した後, 『大和物語』第四百九段「沖つ白

波」を比較して読み、内容や作風の違いを考えさせる。『大和物語』は『伊勢物語』より少し後に成立したと考えられ、『伊勢物語』の影響を受けているとの見方が一般的である。「筒井筒」とほぼ同じ場面の描写に関して、両作品にどのような違いがあるのか、作風の違いはどのようなものか、生徒自身はどちらの作品や作風を好むのか等考えさせたい。また、時間が許せば、『古今和歌集』の「風吹けば」の歌と左注についても紹介し、同じ歌をめぐるいくつかの物語があることを理解させたい。

2.4.2. 生徒観

学習に前向きな生徒たちで、真面目に取り組む。ペアワークやグループワークなどの話し合いは活発に行う。文法事項や解釈など、こちらの問いかけに対しての返答は、反応のいいクラスに比してそこまで積極的ではないものの、ある程度の返答はあるクラスである。内容に関する問いに関しては、積極的に手をあげる生徒もいる。

2.5. 年間指導計画における本単元との関係

言語文化は、2単位である。1単位時間は45分。現代文（小説、韻文）、古文、漢文の3つのジャンルを1年間にわたって学習する。本単元は、読み比べの活動として、2学期後半に設定した。年間指導計画については、別表に示している。

2.6. 単元の指導計画と評価計画（全4時間）

時	目標	主な学習活動	主に評価する内容・評価方法
第1時	「筒井筒」を3段落に分け、第1段落を読み、和歌を中心に内容を理解する。	1 第1段落を音読後、内容について近くの人と話し合い、発表する。 2 重要語句や文法知識を押さえながら、現代語訳をしていく。 3 2首の和歌の解釈については、それぞれの和歌が伝えたいことを理解する。	「知識・技能」 [記述の分析]ノート、定期試験等 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できているかをノートや定期試験等で分析する。
第2時	「筒井筒」第2段落を読み、和歌を中心に内容を理解する。	1 第2段落を音読後、内容について近くの人と話し合う。 2 重要語句や文法知識を押さえながら、現代語訳をしていく。 3 当時の結婚のあり方について学ぶ。 4 「風吹けば」の歌を解釈し、この歌と女の態度が男の気持ちを動かした理由を考える。	「知識・技能」 [記述の分析]ノートや定期試験等 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できているかをノートや定期試験等で分析する。
第3時	「筒井筒」第3段落を読み、和歌を中心に内容を理解する。	1 第3段落を音読後、内容について近くの人と話し合う。 2 重要語句や文法知識を押さえながら、現代語訳をしていく。	「知識・技能」 [記述の分析]ノートや定期試験等 古典の世界に親しむために、古典

	解する。	ら、現代語訳をしていく。 3 男が河内の女への気持ちが冷めた理由を理解し、現代との価値観の違いを理解する。 4 2首の和歌に詠みこまれた河内の女の心情について理解を深める。	を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できているかをノートや定期試験等で分析する。
第4時 (本時)	読み比べ教材として、『大和物語』「沖つ白波」を読み、両作品の違いを捉える。	1『大和物語』「沖つ白波」の本文を音読し、内容を理解する。 2 グループワークで、『伊勢物語』「筒井筒」との違いについて話し合い、発表する。 3 両作品の作品の印象の違いについてまとめる。 4 『古今和歌集』にも同じ歌があり、左注に物語があることを理解する。	[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の確認」 <u>振り返りシート</u> により、『伊勢物語』『大和物語』それぞれの表現の特色や表現の魅力を理解しているかを確認する。 [思考・判断・表現] 「記述の分析」 <u>ワークシート及び定期試験</u> ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めているかを分析する。

2.7. 本時（全4時間中の第4時間目）

	学習活動	指導上の留意点	評価する内容・ <u>評価方法</u>
導入	1 読み比べ教材『大和物語』と第百四十九段「沖つ白波」について、簡単な紹介を受ける。 2 読み比べの活動をするについて理解する。	1 作品紹介は、簡単にとどめ、「沖つ白波」は、『伊勢物語』第二十三段「筒井筒」と共通する話であることを知らせる。	
展開	3『大和物語』本文を音読する。	3 教科書本文に加え、小学館『新編日本古典文学全集』の本文に現代語訳がついたものを配布する。	

	<p>4 『大和物語』と『伊勢物語』を比較する。</p> <p>(1) どんな点が違うのかグループで話し合い、発表する。</p> <p>(2) 両作品の描写の違い、作品の印象の違いについて考える。</p> <p>(3) (2)を踏まえて、「沖つ白波」と「筒井筒」では、読後にどのような違いがあるかを発表し合う。</p>	<p>4</p> <p>(1) グループワークの形で整理する。</p> <p>(2) (3) 個々人でワークシートに記入させる。</p>	<p>(2)両作品の描写の違い、作風の違いを把握し、説明できている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>発表・ワークシート・定期考査</p> <p>(3)両作品に対して作風の違いを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>観察・発表・ワークシート</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 振り返りシートにまとめ、提出する。</p>		<p>『伊勢物語』と『大和物語』との読み比べに主体的に取り組んで、それぞれの表現の特色や魅力に気づいている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>観察・振り返りシート</p>

2022年度 年間授業計画表

学年	教科	科目名	単位数	必修・選択	講座数	生徒数	担当者
1	国語	言語文化	2	必修	3	120	植田敦子

科目の目標
 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。
 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点の趣旨	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

学期	月	単元	単元の目標	教材	観点別評価規準	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	評価の観点
1	4	古文入門	・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	権児のそら塚 絵仏師良秀 地獄妻	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	積極的に学習に取り組む態度 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合うようにしている。・言葉の意味の変化について関心を持ち、自ら調べている。	期末テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
			・歴史の仮名遣いについて学習する。 ・用言について学習する。 ・小説との読み比べを行う。						
	5	漢文入門	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。		・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読の決まり、古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	積極的に学習に取り組む態度 ・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。	期末テスト・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
			・置き字や返読文字、再読文字について学習する。	訓読 置き字 論語				これからの学習に見通しを持って、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。	
	6	小説(一)	・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。	羅生門	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。(11エ) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、五感を磨き、語彙を豊かにしている。(11ウ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えようとしている。 ・典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまよとめようとしている。	期末テスト・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
			・典拠である『今昔物語集』にある説話との読み比べをし、芥川氏の創作のねらいを考える。						
6	論語	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	・学び「学而」 ・「故知新」他 ・「仁」 ・「巧言令色」 ・「怨」 ・政治「子貢問政」	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(11ア) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(B(1)エ)	「論語」が日本文化に与えた影響について理解し、孔子の理想とすところを粘り強く説明しようとしている。 ・孔子について興味を持ち、図書館の資料などを用いて、そのエピソードを調べようとしている。	期末テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度	
2	7	歌物語	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解きを理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。	伊勢物語「東下り」芥川	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などに理解を深めている。(2イ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。	中間考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	9	日記文学	・記録とは異なる日記文学を読んで、内容や展開を的確に捉える。・作品に表れている批評や的確の精神と亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。	土佐日記「門出」	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	学習の見通しを持って虚構性の高い日記を読み、執筆意図などについて積極的に批評したり討論したりしようとしている。	中間考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
10	史伝(1)	・やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	十八史略「臥薪嘗胆」	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の関係について理解している。(2ア)	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(B(1)エ)	やや長めの史伝を読み粘り強く読み、展開を押さえ登場人物を整理しようとしている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度	
		・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解きを理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。	伊勢物語「簡井筒」、『大和物語』「沖つ白波」、『古今和歌集』	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。(2ウ)	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(B(1)エ)	積極的に読み比べ、『伊勢物語』『大和物語』それぞれの特色や魅力に気づいている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度	
11	随筆を読む	・随筆を読んで、作者や当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。	『徒然草』 「花は盛り」	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	作品に表れたものの見方・考え方や興味が積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合うようにしている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度	
12	軍記物語	・合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のあり用を知る。 ・軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	平家物語「本音の最期」	・和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。(2ア) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。(2エ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めようとしている。 ・文体の歴史的背景を踏まえて本文を読み、学習の見通しを持って表現や描写・文体の特色を評価しようとしている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度	
3	1	小説(2)	・三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	志賀直哉「城の崎にて」	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。(11イ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と高揚について理解を深めている。(2カ)	「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)エ)	作品に表れている死生観を捉え、内容を解釈しようとしている。	期末考査 ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
3	2	史伝(2)	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた人物の考えや人物像を読み取る。 ・史伝という文章の背景を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	十八史略「三國志」	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、五感を磨き語彙を豊かにしている。(11ウ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の関係について理解している。(2ア)	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(B(1)ウ)	積極的に史伝を読み、登場人物の考え方や人物像を説明しようとしている。	期末考査 ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
3	韻文	和歌	・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・和歌という文書の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉える。	唐詩 古今和歌集 新古今和歌集	・表現の技法とその効果について理解している。(1イ)	「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、詠まれた情景や心情を説明しようとしている。	期末考査 ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度

3. 当日の配布資料（学習指導案以外）

指導案以外の当日の配布資料は以下の通りである。その中で、資料 5・資料 6の一部（傍線）を本稿最終ページに掲載する。

資料 1 『伊勢物語』「筒井筒」本文（第一学習社「言語文化」教科書より

1年 言語文化 予習課題『伊勢物語』「筒井筒」

資料 2 『大和物語』「沖つ白波」本文（小学館『新編日本古典文学全集』12より）

『古今和歌集』994「沖つ白波」の歌と佐注

資料 3 グループワーク用ワークシート（『伊勢物語』「筒井筒」・『大和物語』「沖つ白波」読み比べ）

個人課題用ワークシート

資料 4 「新学習指導要領に伴う評価・評定について」（学校からの保護者向けプリント）

資料 5 2学期中間試験解答例，二問九 生徒解答例

資料 6 単元末の課題「臥薪嘗胆」

「読み比べ 『伊勢物語』「筒井筒」と『大和物語』「沖つ白波」

資料 7 「現代の国語」振り返りシート

4. 観点別評価について

今年度より本校では観点別評価を本格的に行い、各学期の成績は、3観点のABC評価のみ（10段階や5段階は出さない）という方針であるため、これまでの定期試験や小テストの比重が大きかった評価のあり方を見直す必要があった。とくに「主体的に学習に取り組む態度」については、授業中や課題で課した提出物による評価を主なものとした。単元末の言語活動で書かせる提出課題を奇数回課し、ABCの評価を行った。それぞれに規準を生徒に説明する必要があり、今回の場合は、

・「両作品の違いを正確にまとめているもの」を B評価とし、「まとめ方に工夫がみられるもの」「深く考察できているもの」などをA評価とした。A評価を付けたものの例を印刷して配布した。本稿の最終ページに、生徒に配布したA評価のものを転載する（資料 6）なお、授業後の課題として出すと、時間のかけ方や資料参照の具合など見えない部分があるため、「実力」がはかりにくい面がある。一度だけ、定期試験に組み込んだことがあり（教材は『伊勢物語』芥川）、それを同じく本稿末尾に資料 5として掲載している。採点基準=評価規準が明確に示せ、授業者としては概ねよい方法だったと考えている。しかし、事前には予告しておらず、また試験問題にも明記せずに評価したので、そこに割く時間がなく記入が全くなされていないものもいくつかあり、改善の余地がある。）

また、2022年度1年間観点別評価を行ってみた実感を参考までに記しておく。観点別評価は、本校の場合、ABCの三段階で評価するが、私が担当した「言語文化」ではCはほとんどつけない、つける必要がないのが現状で、多くをBとし、3分の1程度をA評価とした。今まで学期の評価は100点満点にしたものを10段階評価として評価していたため、AとBの2段階しか評価がないこと、B評価に相当する人が幅広く、従来の感覚ではとても同じ評価にできない、幅がある対象を同じB評価とすることにためらいを感じ、また、生徒自身が立ち位置をぼんやりとしか認識できないため、それが生徒自身の力を伸ばすことに果たしてつながるのか等、始終疑問を持ちつつ評価を行った。この評価の仕方が、新しい学力観に合致しているものと捉えようと、点数化されたものに慣れ過ぎている自身を反省すべきところかもしれない。今回の公開教育研究会では、参加者の先生方はどのような形でされているのか、情報提供をお願いした。詳細は後の「5.研究協議会記録」のページに詳しいが、参加者の先生方からの情報提供は私自身も大いに参考になった。

5. 研究協議会記録

以下は、当日の研究協議会の記録である。記録係の先生が記録してくださったものに植田が適宜加筆・訂正を加えたものである。

5.1. 授業者（植田）より

本日の授業と同じ内容を他の2クラスでやった際には話し合いで終わってしまっていた。

今日の授業ではそれだけではなくて、印象の違いなどを考えさせるところまでやることができた。授業の最後に、古今和歌集の話題にも触れたが、個人的に成立事情に関心があり、その成立の問題を考えさせるところにも触れたかったが、この授業時間中では触れることができなかつたので、次回の授業で扱いたい。

生徒は積極的にグループワークにも抵抗がなく、発言も活発で、自分から挙手をしてくれるため、授業者としては大変やりやすい。他のクラスではさらに盛り上がり過ぎて收拾がつかなくなるようなこともあるが、本日の授業クラスはほどよく発言があるクラスである。

5.2. 参加者の先生方との質疑応答

・K先生

今日の授業でやった資質能力は社会の中のどのような場面で生かせると考えているか？

→比較による読みは現実社会でも生かせると考えている。比較して読むということは自分の授業でよく行っている活動であるが、教科書をとびこえて読ませることによって読みが深まるように、学問に対する知的好奇心が高まるようにということはいつも意識している。

・I先生

学問への知的好奇心を高めるためにどのような取り組みをされているか？

→疑問を大切にすること、疑問を持って取り組むことを意識している。

また、教科書は切り取られている一部なので、それを読むだけではつまらない。教科書外のことも取り上げることによって、知的好奇心を深めたいと考えている。

なるべく、「自分が面白いと思うこと」を生徒と一緒に起こすようにしている。

さらに、なぜそう考えるのか根拠を持って答えられることが大切だと考えている。

・Y先生

振り返りを書かせるときに気をつけていることは？また評価の観点についてはどうか？

→主に振り返りは「主体的に学習に取り組む態度」の評価に使用している。授業でやったことをきちんと押さえられているかどうか前提。授業で学んだことだけを書いているものは「B」としている。

自分でさらに調べたり、自分なりの読みを書いたりできているものは「A」としている。

・S先生

読み比べをどのように定期試験で評価しているのか？

→「作風の違いについて論じよ」などという形で定期試験で書かせたことはある。

現在は、定期テストで「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価をつけ、提出物で「主体的に学習に取り組む態度」の評価をつけている。提出物を思考判断表現に加えることも考えられるが、複雑になるので、徐々に取り入れていきたいと考えている。

・（「現代の国語」本校非常勤講師C先生より）

現代の国語での主体的に学習に取り組む態度の評価をどのようにつけているかについて、

「A段階」→どこがどれ位できたかできなかったか、どうしてかを根拠をもって分析的に書けているもの。

「B段階」→できたことを一通りを書けているもの。（おおむねできていると判断しBとしている。）

「C段階」→客観的に書けていないもの。

としている。A 段階は 30% くらいの生徒が相当する。あまりできていない生徒も、何とか「B-」くらいまでにはおさまっている。

5.3. 観点別評価について実施している他の学校の先生方よりコメント

・I 先生（私立中高一貫校）

主に中学校を担当していて、観点別評価から入ったため、高校のこれまでの評価の仕方を知らない状況。実際に今行っていることとしては、単元ごとのノートの評価やグループワーク後のコメントシートで、「主体的」を付けている。「思考判断」と「主体的」は重なってくるところが多いので、どこにどの基準を設けるかが教科の中で課題となっている。生徒には直接出していないが教員側で把握している状況。

・K 先生（県立高校）

本校では 100 点法も残した上で実施している。成績表（通知表）には、ABC は記載せず 100 点満点で記載し、その点数が ABC のどの段階に相当するのかがわかるようにしている。県で統一しているわけではなく、学校によってやり方は異なる。評価の観点としては、「知っているかどうか」→知識・技能、「複数の資料を組み合わせ、読み合わせ、読解」→思考・判断・表現、「継続性と調整力」（課題の提出によって学習の継続力を見る、振り返りシートで調整力についてみる）→主体的に学習に取り組む態度 で評価している。

→膨大な作業量になるのではないかと？（植田）

→思考判断表現については、文字数を指定して書かせたり、主体的に学習に取り組む態度については、ルーブリックを使用してどれくらいできているかの程度で機械的に評価をつけられるようにしたり、振り返りシートの回数をなるべく減らしたりなどで、作業の効率化をはかるようにしている。

・K 先生（同前）

本時の授業の指導案における評価の観点の「観察」はどこで見ているのか？

→寝ているなどは評価がマイナスになるが、一人一人は見られていないのが現状。しかし、授業の取組が良くない生徒は、その他のものも概して十分に達成できていない生徒が多いと感じている。

→（K 先生）自分は、課題を与えてグループワークをする時間を設け、その時には説明などはせずに、生徒の活動だけを観察して評価するという時間を設けている。40 人の取組状況を観察して一人一人評価している。複数回観察できる回を設けるなどして、なるべく平準化できるようにしている。評価は、「C は何人いました。」などと生徒に伝え、「自分の評価が知りたい人は聞きにくれば教える」、「評価に対する疑問があれば受け付け、場合によっては反映させる（評価を変えることもありうる）」という風に伝えている。

・Y 先生（国立附属高校）

評価の付け方の業務増について、お金を払えば解決できる方法もある。業者テストの様に PDF 上に答案を取り込んで採点する。観点を伝えれば自動で採点してくれるシステムもある。一人あたり年間 2 万円程度。

・T 先生（都立高校）

本時の目標を設定した意図は？最終的に作風の違いを考えさせたが、それを「自分の好み」のところ落とし込んだのはなぜか？

→違いを考えるだけならだれでもできるが、それを抽象化することが大切だと考えている。

本時の授業と似た活動をこれまでも行ったことがあるが、どちらが好きか、個人の感性について授業で扱うことにも意味があると考えている。作品の成立について考えさせたいというのが本来やりたかったことではあるが、（個人的な感覚にはなるが、）自分としては印象の違いや好み等の感性的な問題に全く触れないうで、作品の成立について検討することは考えられなかった。

・Y 先生（国立附属高校）先ほどの問題について、読者が変わってきたということもあるのではないかと。（そ

れは近代文学の問題にもつながるかもしれないが。)

国語総合から言語文化になったことによって、どのような違いがあると感じているか？

→古典と近代文学とが一緒になることによって、一緒に読む、合わせて読むという活動がやりやすくなったということはある。これまで扱わなかった作品を扱ったりということも増えた。

・N先生（都立高校）

本日の授業を見て、生徒は大変よくできていると感じた。もっとこのような力をつけさせたい、このように育てたいという生徒像などはあるか？

→本日のような活動は活発に行うが、基礎学力が定着していないと感じている。活動は活発にやっても、助動詞などは驚くほどできていないことがある。生徒の学力差もかなりある。

5.4. その他質問等

・現代語の文法の定着はどのくらいか？

→やはり、助詞や接続詞の使い方など、文章を書いたものを見たときにおかしいと感じることが増えた。スマホ、SNSなどで簡単なことばのやりとりが増えた影響もあるか？

・一人一台端末は実現できているのか？

→完全にできているとはいえないが、各自で端末を用意するようには伝えている。文科省から早く整備するように指導があった。個人端末の学校への持ち込みは可能だが、ネットに接続できない。学校のPCやiPadを使う必要あり。

6. 反省、振り返り

当日、予想通り『伊勢物語』「筒井筒」の章段と『大和物語』「沖つ白波」の作品の違いを抽出することに多くの時間がかかり、作品の印象の違いにうまくつながられたことはよかったが、どちらが好きか、またその理由は、という問いかけに対して生徒の考えを数人から聞いたところで授業は終わってしまった。『伊勢物語』「筒井筒」『大和物語』「沖つ白波」と同じ歌である『古今和歌集』944 歌左注との成立順を考察させる問いまでできるとよかったが、時間的に厳しいという見通しも既にあり、公開教育研究会でどこを見せ場として授業するかは最後まで悩んだところであった。成立順の問題に少し言及すると、これまで授業をやっていた際には、『古今和歌集』左注が一番古い形かと考えていたが、同僚の先生の見解や論文（森本茂氏「伊勢物語『筒井つの段』の構成—伝承性を中心に—」論究日本文学 31 1-9, 1967-10 立命館大学日本文学会）を参照した結果、最も古態を残しているのは『伊勢物語』「筒井筒」であることがわかった。（森本氏の論文に詳しいので詳細はそちらを参照されたい。）このような、授業者自身関心のある問題を授業で投げかけて生徒とともに考えるのは、私自身とても楽しいし、生徒にとっても深い学びとなると考える。

公開教育研究会に話を戻すと、今回、新課程で観点別評価を本格的に行うようになってから初めての公開教育研究会であったこともあり、参加者の先生方から評価にまつわる貴重なご意見や情報提供をいただき、私自身も大きな学びとなった。また研究会の準備をする段階で、本校国語科畠山先生や今成先生には多くの助言をいただいた。また非常勤講師で「現代の国語」を担当されている千々松先生には、「現代の国語」における観点別評価の方法について資料の提供をいただき、また当日もご発言いただいた。諸先生方に深く感謝申し上げたい。

参考文献

森本 茂「伊勢物語『筒井つの段』の構成—伝承性を中心に—」論究日本文学 31 1967年10月 立命館大学日本文学会
片桐洋一他「竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語」（『新編日本古典文学全集』小学館1994年）
小沢正夫他「古今和歌集」（『新編日本古典文学全集』小学館1994年10月）

二問九 2

生徒解答例

本文では、女は鬼に食われる時に「あなや」と抵抗しているが、続きの文章では女が泣いていて、降りたがっているところを助けられたように表現されている。(蘭 さん)

続きの文章で、女は鬼ではなく人に連れ戻されただけであると知り、この物語は男と女が駆け落ちしている話なのだろうかと思いました。連れ去られている時に「かれは何ぞ」と聞くのは不思議だと思いましたが、男と女が元々から知り合いだとすると納得できます。(蘭 さん)

続きの文章がないと鬼に対して恐怖の念を抱き、男をかわいそうだと思うが、続きの文章があることで、男がしたことは自業自得だと感じるという違いが生じる。(蘭 さん)

女を男から取り上げたのが鬼の場合は、はかない、人間の力は弱い、などの印象だが、女を男から取り上げたのが人間だと、真の敵は人間、やるせない、といった印象を受ける。(菊 さん)

続きの文章がないと、霊的な存在である鬼がいることで、神秘的な物語になり、男の切なさがより強調されるが、あると現実味を帯びてしまう、神秘的な感じが薄れてしまう。(菊 さん)

続きの文章があることで、鬼に食べられるという非現実的な要素がなくなり、また、改めて女の身分の高さや家柄の良さを実感する。(菊 さん)

続きの文章があることで、フィクションの完全な作り話として読んでいた物語が、事実に基づいた物語に変わり、ぼやけていた物語の印象がはっきりと読めるように変わった。(梅 さん)

この文章がないと、女が鬼に食べられてしまい、残された男がかわいそうだという印象を持つが、この文章があると、男が女を無理やり連れだした印象になる。(梅 さん)

追加文がないと物語のように現実味がなく、おもしろく感じるが、追加文があることで、現実味を帯び、男と女が現実にいる人物のように感じられるが、話としてのおもしろさには欠けてしまう。(梅 さん)

女と男はお互いに愛し合っており、駆け落ちしたように思っていたが、続きの文章があると、女が嫌々ながら男に誘拐されたような印象に変わる。(梅 さん)

今回は、問九の1・2の答案で「主体的に学習に取り組む態度」の評価をつけています。

Aとしたもの

- 1 女を連れ去ったのが女の兄であることがきちんと押さえられていること
- 2 本文の正確な読み取りに基づき、比較の形で自分の見解が書けていること。

Bとしたもの

- 2が比較の形で書けているもの。

Cとしたもの

- 2が比較の形で書けていないもの。
- 2が解答なしのもの(時間的制約があったと思いますが、今回はこの基準をつけています)

参考

問九 次の文章は本文のあとに続くものである。これを読んであとの問いに答えよ。

これは、二条の后の、いとこの女御の御もとに、つかうまつるやうにてゐたまへりけるを、かたちのいた
 脚でたくおはしければ、盛みて負ひて出でたりけるを、御せうと、堀河の大内、太師國経の大納言、まだ下
 臈にて、内裏へ参りたまふに、いみじう短く人あるを聞きつけて、とどめて取り返したまうてけり。それを、
 かく鬼とはいふなりけり。まだいと若うて、后のただにおはしけるとときや。

- 1 続きの文章では、鬼の正体は何であつたと述べているか、三〇字以内で答えよ。
- 2 この続きの文章があることによつて、どのような印象の違いが生じるか。あなたの考えを書きなさい。

(1)

言語文化

伊勢物語、筒井筒と大和物語

沖つ白浪の佳風や河内の妻下つて

筒井筒

- ・時の流れを感じる
- ・ノリクマニ
- ・大和の女と河内の女の中立的な立場
- ・短歌中心に話が進む
- ・遠まわし相手を気遣う
- ・表現 - 明るい印象
- ・男が悪い
- ・心ねとして奥ゆかしい(大和の)
- ・範囲広い

大和物語

- ・詩が多い
- ・心情描写多い → 現代の人に分かりやすい
- ・重感情、ストーリー(恨み祭り)
- ・河内の女が悪い
- ・自我が強い
- ・妻の味方
- ・今の話(二時)
- ・話の意点を殺している

言語文化

伊勢物語、筒井筒と大和物語

沖つ白浪の佳風や河内の妻下つて

筒井筒

- ・河内の女が、男に思いを伝えるような歌を詠んでいる
- ・男 - 下級地方官
- ・大和の女の容姿の描写なし
- ・歌が多い
- ・男が大和の女の前には正体を現していない(歌と云)
- ・大和の女 - 男の浮気を知っているのか不明

大和物語

- ・男と女の心情がくわしい
- ・大和の女の歌を聞いた後のことが描かれている
- ・男は玉藻だ
- ・大和の女の容姿が新麗
- ・召し使いと前を歌を詠んだ
- ・大和の女 - 嫉妬心が描写されている
- ・分かりやすく表現が短い → 雰囲気相手の気持ち少ない



資料6

A

言語文化

伊勢物語、筒井筒と大和物語

沖つ白浪の佳風や河内の妻下つて

筒井筒

- ・道徳的描写が少ない代わりに詩が多いの点がある
- ・事実を淡々と書いている(心情の変化の描写が少ない)
- ・切ない感じ
- ・男が大きいので、それを取り合う女の物語的な点
- ・遠まわしな表現から、相手を気遣う言葉
- ・表現 - 明るい印象
- ・ストーリー性、時の流れ

大和物語

- ・大和の女、自我が強い(百遍に書き)
- ・主人公だと三人が一人 - 河内の女は脇役感がある
- ・男の浮気の様子がない感じが気になる
- ・立場になる」というイワクマ、比喩として使われている
- ・重感情、ストーリー性表現(恨み祭り)
- ・心情描写がわかりやすい → 現代人に理解しやすい(狂言的な話)
- ・河内の女が悪い印象を持つ

言語文化

伊勢物語、筒井筒と大和物語

沖つ白浪の佳風や河内の妻下つて

筒井筒

- ・大和の女が男の浮気に気づいているのかどうかが男に押しつけようと思っているのか書かれていない
- ・幼少期の背景から書かれている
- ・男が下級地方官
- ・うたを詠んでいる
- ・和歌が多い → 河内の女の心情が分かる

大和物語

- ・大和の女の老えていること、本心がほろり書かれている
- ・浮気していることがわかる
- ・河内の女が悪く書かれている
- ・男が玉藻
- ・水が凍結する、謎描写
- ・隠れていることが入る(玉藻)

